

講義名	グローバル競争論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	李 東浩		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要	
<p>後期では、コロナ禍の拡大収束状況に次ぎ、以下のような方針で対応していきます。 大学が一部対面授業（ゼミなど）を実施できる場合：本授業はオンデマンド型授業とします。 コロナ禍が拡大し、大学が一部対面授業（ゼミなど）でも実施できない場合：本授業はLIVE型授業とします。</p> <p>本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する 本授業の実施方法の詳細について、李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育 教学双方の意識転換によるアクティブラーニング」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104（30頁）、を参照 ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について、李東浩（2018）「学部ゼミ運営に関する一摸索 「楽しく頑張る」から「ひとづくり」」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp. 1-19（19頁）、を参照 真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める 毎回、面白いビデオがある 毎回、楽しいレスポンス課題提出がある 先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み</p> <p>米中貿易戦は単なる両国間の経済貿易領域の紛争ではなく、その本質は米中争覇にまで発展しつつあり、全世界へも広範な影響を与えている。この課題をしっかりと理解するために、グローバル競争論の本授業は単なる経営だけではなく、経済・政治・地政・歴史的な視点をも加えて複眼的に切り開き分りやすく解説する。グローバル化になりつつある中、歴史的に世界のリーダー格になった・なりつつある国々及び地域の巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を優しく紹介する。変遷著の世界観、歴史観、国際関係観の形成に一つになることを期待される。 旧来と現存の世界大國であるポルトガル、スペイン、イギリス、ドイツ、日本、ロシア、アメリカ、中国の歴史的な成長・躍進・衰退のプロセスと現況を触れな</p>	

到達目標	
<p>知識・技能の観点： 本授業は、学修するものにとって当然知っておくべき知識と技能を習得できる内容になっている。 思考力・判断力・表現力等の能力の観点： 基本的な理論を紹介するだけでは面白くない、毎回の授業にビデオがあり実際の組織をも採り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただビデオを単なる見るだけで終わるのではなく、考え、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで、毎回知識と能力が身につけることを実感できる。 主体的な態度の観点： 履修生は、本授業を学修することによって、能動的に主体的に勉強することの習慣を養成できる。</p> <p>日常にグローバル競争に触れたり、国々・産業・企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて世界大局観的な側面から評価したり、レポートにまとめることができ、また、本授業で得られたグローバル競争論の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的なグローバル競争分析を行える。</p>	

提出課題	
<p>毎回、レスポンスによる課題提出がある。</p>	

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック	
<p>毎回、前回のレスポンス課題を解説する。 優れた提出内容等を、マーカーや色付けで強調して表彰します。モチベーションアップにつながる。</p>	

評価の基準	
<p>コロナ禍の拡大状況やオンデマンド・LIVEの授業実施方法に関係なく、成績評価を方法以下のようにします。</p> <p>平日の出席（レスポンス）：60％、期末試験：40％</p> <p>ただし、以下の2点、注意をしてください。 授業出席の質量、優秀なレスポンスなどはプラスに評価する。 教学双方もすでに前期半年間の適応時期を経験したので、後期の本授業は、例年よりまた柔軟に対応するが、期末試験をも含めて、前期より相当評価基準が厳しくなること、気を付けてください。</p>	

履修にあたっての注意・助言他	
<p>先輩からの以下の意見を是非参考してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「五感に触れる画期的な授業」：充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！ 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だとします。モチベーションがとて高も維持できています」 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」：知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！ 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」 	

教科書	
<p>.使用しない。.</p>	

プリント資料及び参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> レジメ（＝プリント）等資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来て下さい。早めにダウンロード・印刷を済ませて下さい。 授業はPPTとレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してもらおう。 参考文献： Paul Kennedy ポール・ケネディ（1989＝1993）『大國の興亡』 草思社。 Graham Allison グレアム・アリソン（2017＝2017）『米中競争前夜 新旧大國を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』 ダイアモンド社。 Samuel Huntington サミュエル・ハンチントン（1996＝1998）『文明の衝突』 集英社。 原陽一郎（2017）『イノベーションとは何か』 Kindle版。 	

授業計画	
<p>先輩からの以下の意見をも是非参考してください。</p> <p>本授業の履修を勧めない3つの理由 1. 毎回出席し授業まじめ文（レスポンス）を提出 結構大変、面倒くさいかなあ。 2. 授業内容も多く教室纪律も厳しい！ 私語・居眠り・携帯弄りなどは不可能に近い。 3. 期末試験はある 結局、真面目でないと単位を取る確率は高くないかなあ。</p> <p>授業シラバス。注：（ ）内はビデオ内容 1 イントロダクション：進め方・出席・単位等（56中攻防の最前線） 2 グローバル競争概要（ノベル賞発祥の地！北欧スウェーデン） 3 歴史の示唆：トウキョウイデオロギの興（米中貿易戦争の裏面、その時日本は？） 4 國の競争優位（「一帯一路VSインド太平洋」 日中印の「新たな三角関係」） 5 産業の競争優位（アフリカで日中激突 最前線タンザニア・日本式で挑む） 6 企業競争優位（世界は「アメリカ離れ」？そのときニッポンの決断は？） 7 イノベーション競争（アメリカ激変・大統領選を揺るがす超格差社会） 8 ベトナムとアセアン（ベトナムと日本！セカンドステージで沸騰） 9 韓韓（どうなる？今後の「日韓韓」関係） 10 ポルトガルとスペイン（独立問題に揺れるスペイン！） 11 オランダとイギリス（移住の楽園オランダ！） 12 フランスとドイツ（ドイツ急変！日本との関係は？） 13 日本とロシア（ロシアに意外なチャンス！激突ツアーで日本人殺到！） 14 アメリカと中国（世界のAI＆ロボット；海底掘！） 15 まとめ（巨大中国の行方...世界の覇権争い最前線！）</p>	

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。 毎回、「能力を蓄積すること」を実感でき、だから、他のたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない（人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！）。 恐らくこの授業は、あなたの頭に永遠に残る大学授業の一つである（授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもしれない）。興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。</p>	

実務経験の有無及び活用	
<p>映像を見るだけではなく、メモしたり分析して、レスポンスに回答を出し、発言をする。</p>	

備考	
<p>学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。 通り甲斐のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。 静かで受講できる環境（私語ほとんどない！）。 退屈ではない（退屈の時間さえもない！）。 みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感ぜろ！）。</p>	